

会議結果報告書

令和7年10月24日

| | |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会議の名称 | 令和7年度第3回社会教育委員会議 |
| 種別 | <input checked="" type="checkbox"/> 附属機関 <input type="checkbox"/> 懇話会等 |
| 開催日時 | 令和7年 10月 23日(木)13時30分 ~ |
| 開催場所 | 舞鶴市中総合会館 視聴覚室 |
| 出席者 | 社会教育委員8名(リモート参加:江上委員、欠席:鈴木委員) 生涯学習部長、生涯学習部次長兼生涯学習推進課長、事務局(3名) |
| 議題 | 報告 (1)近畿地区社会教育研究大会(和歌山大会)について (2)日星高等学校探究授業について 委員の事例発表(田中委員) 協議内容 (1)公民館ヒアリング報告(江上委員) (2)公民館職員に求められる役割・スキルの意見書(案)について その他 (1)京都府社会教育研究大会について 11月21日(金) 於:京田辺市立中央公民館 |
| 公開の区分 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 部分公開 [理由] |
| 傍聴者数 | 0名 |
| 審議結果及び主な意見等 | 公民館職員に求められるスキルに関して議論を行い、今期は意見書を作成することが決まった。社会教育における具体的な事例を記載し、来期に繋がる意見書を作成する。 |
| 会議録の作成様式 | <input checked="" type="checkbox"/> 詳細 <input type="checkbox"/> 要約 |
| 備考 | |

| | |
|-----|----------------------------------------|
| 担当課 | 舞鶴市 生涯学習部 生涯学習推進課 TEL (0773)68-9223 |
|-----|----------------------------------------|

令和7年度第3回社会教育委員会議議事録

第3回社会教育委員会議概要

- 開催日時 令和7年10月23日（木）13時30分～16時30分
- 開催場所 舞鶴市役所 中会議室
 - 出席委員 福原委員、谷口委員、阿部委員、江上委員（リモート）、田中委員、波多野委員、吉岡委員、渡辺委員 計8名
- 欠席委員 鈴木委員
- 事務局等 福田部長、森室長、森野係長、山本、仲嶋
- 傍聴者 なし

1. 開会

- 福原会長

2. 報告事項(事務局)

(1) 近畿地区社会教育研究大会(和歌山大会)について

- 森野係長
台風接近のため、中止となった。

(2) 日星高等学校探究授業について

- 森野係長
9月17日に福原会長、谷口副会長、阿部委員、森野、仲嶋が参加した。昨年度はどうしたらしいかわからないという感じであったが、今年は熟度が増していた。企業と連携したり、イベントを考えていた。

- 吉岡委員

昨年度は調べ学習で、やらされ探究のところがあった。今になって少しずつ動いている。動いている理由として大人との出会いが大きな要因となっている。出会いからスイッチが入っている。子どもは正直なので、楽しいことはするし、楽しくないことはしない。それぞれに楽しみを見つけて取り組んでいる。11月8日には西図書館でゲームイベントを企画している。西図書館の事業にスタッフとして参加したことがきっかけで始まった。始めは1人だったが、周りの子どもたちも「楽しそう」と、参加しはじめている。

- 阿部委員

久しぶりに学校現場に行き、教師という視点で見てしまった。探究学習は難しいと思った。教師が何を準備しないといけないのか、見通しを持っていないとだめ。何をどう引き出すのかを持っていないと授業が成り立たないと感じた。ただ、新たなことにチャレンジすることが大切。校長が「普通の普通科ではダメ」と言わされたが、まさにその通りで、今から積み上げていくのだろうと思う。また機会があれば見学したい。

- 谷口委員

先生方の役割を見たかったけれど、生徒の取り組みを見ることが多かった。生徒の見どころを聞いていればもっと理解できたのかもしれない。自分自身が探究授業を経験していないので、そこを見ることができてよかったです。先生の指導のコツも知りたい。

- 福原会長

探究の授業は、事業者の視点から見ると、着地点がわからない。プロセスを大切にするというのならそれで良いと思うが、成果物を見せるのが難しい。討議する中で道が見えてくることもあるので先生たちは難しいことをしていると感じた。社会に出たら大切なことなので、これからも日星の探究を見守っていきたい。

3. 事例発表(田中委員)

今までしてきたことを話したい。

結婚・出産を機に職を辞め、その間に大正琴を始め、今に至る。子育てをしながらPTA活動をしてきた。同時に文化協会の常任理事をしてきて、10年が経った。

主に公民館を活動の場にしている。他市の公民館にも行っている。

文化協会に所属しているが、会員が減ってきて1000人を切った。もともとは団体の会員ばかりだったが、コロナをきっかけに個人会員が増えてきた。

令和2年4月から社会教育委員となり、7月から「ちょっとコンサート」を始めた。きっかけは、当時の係長に「中公民館でコンサートしたい」と相談を持ちかけ、話に乗ってくれた。城南会館と中公民館で第1回を行った。準備期間はだいたい2ヶ月。大規模ではなく、公民館の昼休み30分程度のコンサート。

青葉山ろく公園では、ダンスやヒップホップ、和太鼓の出演もあった。また、まなびあむでは、夏休み児童クラブとシルバー人材センターのコラボがあり、70名程度の参加者があった。

市がチラシやホームページなどで広報してくれたので、お客様も増えてきた。

城南会館では、地域の写真を展示する「ちょっとギャラリー」を企画したら、地域の方がたくさん来られた。今年から市民プラザや西公民館でも実施している。

令和2年度から始まって、コロナでたくさんの中止があったが、一定数開催できている。

コロナがあっても続けられたのは、やりたいところでやりたいようにさせてくれた公民館のおかげと感謝している。失敗してもよい雰囲気があり、弾き直す演者もいて楽しい。演者は公民館に感謝していて、公民館は地域づくりの一環と思ってもらっているので、Win-Winの関係だと思う。

担当が変わっても続いている。若い世代の方も、外国の方も、いろいろな方に来てほしい。

(事例発表に対する質疑)

○福原会長

多種多様でいろんなところでしている。取りまとめはどうしているのか？

○田中委員

出演者は私個人に直接言ってられる。初めての方は、文化協会に電話がかかってくることもある。まれに文化協会のホームページからの申込みもある。

○福原会長

練習の成果を披露したいというニーズがあるということか？

○田中委員

大きな会場だと発表のハードルが上がる。ちょっとコンサートだと出演料もいらないしハードルが低いので、出演したい人が多い。

○福原会長

組織にいると、いろんなしがらみが出てきて、その中でがんじがらめになってしまふ。各個人が好きなようにやり、好きなとき出来るというのは、今のライフスタイルに合っていると思う。公民館の利用向上に向けて良い事例だと思う。

○田中委員

初めは文化協会の人に声をかけて出演してもらった。そこから、出演している人たちを見て「自分も出てみたい」など、興味を持つ方が増えた。市が広報してくれているので、協会に問い合わせる人もいる。公民館に直接言っている人もいる。

○福原会長

受け入れ側から声を掛けると注文が多いが、やりたい人から発信すると、好きなようにやってもらえばいいので、良いやり方だと思う。今後も続けていってほしい。

○江上委員

良い事例だと思った。行動力があり、実現できる人に話をするとスムーズにいったという話題は、意見書に事例として書けそうだと思った。

○吉岡委員

初めは役員発信であっても、関わる人が増え、市民に広がっているというのは、人をつなげるというのにとても良い事例だと思う。

○渡辺委員

スポーツの世界で考えると、専門性が高くなり初心者が入りにくい状況がある。一部の競技では初心者ばかりでやられているものもあり、それは多くの参加者がある。地域クラブ活動が始まることからも、協会としても実施する方法などを考えないといけない。

○波多野委員

ハードルが低いというのが大事で、ワクワクすることが大事だと思う。みんなでわいわい、がやがや、緊張するけど楽しく、子どもの失敗も許せるのが良い。自由にされているところが良いと思うし、やりたいという人がいた時に、やれる環境を作ることが大事だと感じた。

○阿部委員

地域の活性化に大切なことは自分が楽しむこと。楽しめば次がどんどん生まれてくる。

○谷口委員

一市民として中総合会館に行った時に、たまたま尺八のちょっとコンサートをしていました。通りかかった市民が文化に触れる良い機会を感じた。オープンな場ですると、そこで久しぶりの出会いがあったり、子育て中の保護者の方にとっても文化に触れる良い機会であり、良いと思う。

4. 協議内容

(1) 公民館ヒアリング報告(江上委員)

～資料を元に発表～

- ・城南会館館長とのヒアリング結果を組み込んだ。
- ・用語の定義について補足説明をすると、きちんと質問を決めるのが構造化インタビュー、全く質問を決めないのが非構造化インタビュー、その間が半構造化インタビューである。
- ・共起ネットワークとは、視覚的に示したもの。
- ・ヒアリングなどを通して見えた公民館職員としてのあり方をまとめている。
- ・考察はもっと読みやすいように直す。
- ・事例と一緒に各館や他市の公民館の事業を共有することも大事だとまとめている。
- ・前年度の館長に運営会議に入っていたなどの事例も聞いているので、そういうことも事例に入れたい。

- ・田中委員のちょっとコンサートの始まりは資料として入れられると良い。
- ・建議の中で地域を知るということは何かという部分で、資料がつけられればわかりやすい。
- ・人事的な問題もあるが、各職員が顔を合わせる機会が少ないという意見もあり、体制を考えた方が良いという意見もあった。
- ・公民館職員のスキルとして属人的なところもある。もう少しシステム化できると良い。
- ・職員のスキルアップのために、資格をとるという目線もあるが、業務内で知識共有できる場があればと思った。

(江上委員の報告に対する意見交換)

○渡辺委員

「知る」について、地域の敬老会、婦人会等あらゆる団体が参加する会に公民館館長も参加されていた。いろいろな立場の方が相談しに来られ、これから地域課題がわかつてくる。他の公民館でも、そのような地域との関わりを持つことで、そこから得た情報を共有する形が良いと思う。

○江上委員

当たり前のことを書いただけ。具体的にどうしたらよいか。意見交流の場があることを資料にしても良い。

○谷口委員

知る、という言葉をキーワードに進めるとわかりやすい。「知る」とは、人から言われるようなものではなく、自発的に関心を持って知ってもらう、好意的に知ってもらうと思うことが大切。

○吉岡委員

共起ネットワークの色分けや線の違いは？

○江上委員

丸が大きいと言葉がたくさん出てきたことになる。線の太さが太いほど一緒に出てきている回数が多い。同じ色が1つの会話中、文章中に出てきている。

(2) 公民館職員に求められる役割・スキルの意見書(案)について

【資料に基づき事務局説明】

○今期委員のまとめを「意見書」とすることについて →よい(全員賛成)

○意見書の構成について →よい(全員賛成)

○意見書の「6. 公民館職員の役割を果たすために必要なスキルに盛り込む内容」について

○阿部委員

意見書として出した方がより強く意見を聞いてもらえるので賛成。構成もよく考えられている。思ったことは、今まで公民館館長の話を聞いていても、公民館職員として必要なスキルに書いてあることは館長たちはよく理解している。ただ、絵に描いた餅にならないように、さらに具体的なものがあるとよいのではと感じた。例えば公民館を学校に例えると、学校教

育計画を立てる、となった時に、考えるべきは「スキル」という話ではなく、具体的な課題、方法、対策をきちんと考えることが大切になってくる。また学校での例えにはなるが、校内暴力をなくすためにはどうしたらよいかを考える時に、許されるものではない、ということだけで終わるのではなく、関係機関と連携を取るなど今後どのように対策を取るのかを考えなければならない。学校時代に、地域から見放されている→信頼関係を作るにはどうするか→地域支援協議会を作る→ご飯会をする、といった具体的な策を考えてきた。業者テストの実施や1~3年生全員との3者懇談会により、この学校の生徒の学力がわかり、学校としてどのように責任を取るべきかを職員に話した。課題がある生徒がいても、排他主義をやめて迎え入れる事が大事だという話をした。当たり前のことを当たり前に伝えるために明文化した。

これを公民館の話に当てはめる時に、公民館のあり方について、館長が公民館をどうしたいのかという話を入れ、公民館の具体的な計画を作るべきなのではないかと思う。

○波多野委員

具体的にすることは大事なことだが、書くのはとても難しいところ。書いてしまうとやらなくてはいけないし、一般論で済ますと楽だが、いろいろな捉え方をされることもある。公民館のスタッフのスキルアップは直近の課題だと市に伝え、社会教育委員と一緒に取り組むのか、市にお任せするのかは議論する必要があると思う。意見書の中身は分かりやすいと感じた。

○渡辺委員

公民館職員の役割とスキルについて「知る」と書いてあるが、公民館職員がどうやって地域を知っていくのかがいまいちイメージがつかない。公民館職員が「地域の団体に出ていって知る」というところを入れてはどうか。スキルとして社会教育主事からの視点も入れられたらよいのではないか。

○吉岡委員

意見書として出すのは賛成。国の動きがウェルビーイングに向いているが、社会的に実現するには個人がウェルビーイングを実現しなければならないと思う。そこにおける公民館の役割としては、挨拶などから繋がって、市民が「聞いてもらえる」と感じることでウェルビーイングに繋がると思う。教師としてまず必要なのはteach(教える)だが、探究授業ではジェネレーター(発電機の役割)になれと他の職員に言っている。自分も分からず、相手も分からずの内で、何か少しでも踏み出していくことが大事で、一緒に考えることが大切だと思う。「ちょっとコンサート」のように、ちょっとだけというのがハードルが下がる。公民館にも、「ちょっと」という要素があると良いのではないかと思う。どの世代になっても学び続けなければいけない中で、公民館の役割がすごく大きくなる。公民館が学びの場という認識があれば良い。

○田中委員

本市の現状がすっと理解できたので、意見書としては具体的な現状を入れるなどしてこの部分をもう少し膨らませたら良いのではないかと思う。公民館の館長がいろいろなスキルを求められていて、これを網羅するのはスーパーマンだと思う。「能力」と自分が言わされたら嫌かもしれない「力」といった表現の方が良いかも知れない。プロデューサー、コーディネーターというのは大事で、楽団で言うと指揮者であるが、それぞれ個性があり、得意な分野などもあるので、個性を出しながら熱意を持つのが大事だと感じる。

○江上委員

大枠はこの通りだろうと思う。公民館職員が読んで、まず何をすればよいのかがわかるようにしたい。「熱意が大切」と記載があるが、その後に具体例が入れられるともう少し責任

感のある意見書になるのではないか。委員の方々の地域の方との関わりや、公民館と委員の関わりが続いているというような事例があればよいと思った。

○谷口委員

構成はこんな感じだと思うが、求められているものが多く、大きすぎる。具体的なものや、公民館職員の1人や館長だけが重荷を背負うのではなく、スキルとして挙げられるいくつかの素養を補い合いながら、公民館職員がみんなでチームを作っていてほしい。市民の当事者性にどう働きかけるのか、いかに市民を巻き込むかが大切で、そのためにはこんなスキルが大切だということだが、あまりプレッシャーに感じず、各公民館として何ができるかを考えてほしい。

また、本市の現状をもっと赤裸々に書いてよいのではないか。困っていることをはっきりと書いても良い。意見書なので明確に表現してもいいと思う。また、次につながっていくような内容にしてもいいのかなと思う。今の内容はまとまりすぎている感じがあるので、もう少し表現を広げてもいいのかなと思う。他の委員さんの話を聴いて、違う視点の話も聴いたので、もう少し議論をして自分の考えも整理したい。

○福原会長

綺麗にまとめたと思ったが、皆さんの意見を聞くと、田中委員の意見のように「能力」だと硬いので「力」の方が良いのか、阿部委員の意見から実効性を持たせるという意見を聞くと、この意見書に具体性に欠けると感じた。

○谷口委員

具体的な計画があったほうがいいという意見がある中で、次期に向けて意見書の最後に各公民館の計画があつた方が良い、具体的な行動に移さないといけない、というのがわかるようにもいいかなと思う。現状や公民館職員に求められる役割やスキルが端的すぎて、実際にどういうことなのかというのがわかりにくいので、「具体的に言うと、こんなスキル」という膨らましや読んだ人の励ましやヒントになるようなものがあつてもいいかなと思う。今回の意見書として何を伝えたいのか、膨らましてほしいことを議論していきたい。

○阿部委員

スキルが細かすぎるかもしれない。自分にはできない。項目としては6つあってもよいが、中身は館長に任せる部分があつてもよいのではないか。舞鶴の公民館の共通の課題は何か、地域の課題を時間を掛けて少しづつ解決していくことを考えなければならない。やはり計画は作った上で検証をするべき。

○波多野委員

学校を公民館と照らし合わせて考えた時に、それぞれのクラスで活動していると、隣のクラスがよく見えたたりする。それではよくないとのことで、学校全体で話し合いをして、そこで出た意見を具体的に取り組んで上手くいくことがあった。しかし、これをやりましょうとなった時に乗る人と乗らない人がいて、その調整も難しい。公民館でも同じで、みんなで話し合って公民館で何をしたいのかを話す時間が必要。そういった工夫をしていくとよい。自分のテリトリーの中で何ができるのか自分で考えられるようにしたらよいのではないか。熱量を持ったスタッフがいてくれるとよい。「こういうふうになってほしいな」という言葉が文章の端々に感じられる意見書になつたら良いと思う。

○渡辺委員

報告書は成果と課題が必要。具体的に公民館でやることや課題を議論し、意見書に沿つて振り返りをすることで、次に向けてどうしていくのかというのを報告して貰う必要があると思う。1~6までの項目をしてもらうためのスタートを示したらどうか。しかし、意見書でここ

まで提示すべきかはわからない。

○吉岡委員

ここにいる委員は何年も委員をしていたり、社会教育活動をしておられたりするような知見がある方々が集まっている。しかし、公民館館長は充て職で就任し、数年後には変わってしまう。そう思うと次の人が取り組めるようにするにはロールモデルが必要。福知山市の桃映公民館の例など具体的なロールモデルがあれば実践しやすい。

○田中委員

具体的な例を紹介すると、以前の加佐公民館の館長が元校長だった。「お茶飲んでいき」と声を掛けていただいたら、手品が上手で、披露してもらったことから、館長と仲良くなつた。そこから大正琴の会員さんも館長と仲良くなり、講座もしたり、以降は相談もしやすくなつた。職員が公民館以外の場所で出会った時に手を振ってくれたこともあり嬉しかつた。子どもで言うと話しやすい先生がいる、病院においても相談しやすい先生がいる、といった具体的な例があつてもよいと思う。公民館職員が子どもたちにとって何でも相談できる人になれたらよいなと思う。

○谷口委員

混沌としていたり、多様化している社会なので、縛られないようにするには、教科書的な表現だけでなく、血肉が通つた言葉や遊びのある言葉が必要。先進的な公民館という話がある時に、上手に助けを求めている、巻き込んでいる。公民館だけがバリバリとするのではなく、足りない部分を利用者に求めている。助けを求められたり、ゆるっとみんなと一緒に、いうことができると、試しにやってみよう、気にしてやってみようというようになる。挨拶ができない公民館は不愉快に思う。出迎え方を失敗すると次には繋がらないので、挨拶等を踏まえて出迎え方を意識している。振り返りとしてのチェック項目、考える視点として項目があればよいのではないかと思う。

○江上委員

具体的な事例はあつた方が良い。館長が手品を見てくれた、など素朴で身近な話題で良い。計画書や改善書を取り入れてもいいと思うが、急に取り入れるのも難しいと思うので、学校の事例を上げて、公民館ならこの範囲でできるというのを議論してもいいと思う。

○福原会長

一旦事務局で取りまとめて委員に提案する。

○意見書「7. 第33回社会教育委員会議からの意見を意見書に盛り込むこと」について

○吉岡委員

最後に自治体の例がほしい。館長の行動でこんな風に繋がつたという事例を入れてもいいのではないかと思う。事例を紹介すると、城南会館の館長が学校の探究授業に参加し、生徒たちの反応が薄かったことから「失敗だった」と館長は話していたが、それがきっかけで高校生が城南会館でイベントを企画することに繋がつた。このように、ゆるつとしたことでも「こうしたらこうなつた」ということを書き込んで良いと思う。

○谷口委員

人事のことまで踏み込むかという話があつた。今期の当初に「人事に踏み込むのか」という議論があつたと思うが、人事に踏み込むのではなく公民館職員のあり方について議論することになつていたように思う。どうするか？触れるのか？意見を聞きたい。

○福原委員

谷口委員の意見について皆さんのお見はどうか。

○田中委員

若い世代の利用や多世代の利用を目指すのであれば、職員においても元部長がいたり、若い方もいたりいろいろな世代がいた方が良いのではないかと思う。

○吉岡委員

多世代が通う公民館であるということを思うと、いろいろな世代の館長がいても良いと思うし、若い世代や正職員が必要だとは思う。ただ、それを私たちが言うのか言わないのかの判断はわからない。

○渡辺委員

お金のこともあるのであまり理想論は言えないが、公民館のスキルを求めていくなら、社会教育主事のような人が必要だと思う。

○波多野委員

意見書として出すにあたってオブラートに包んだ優しい文章にするのに、正職員の配置というと人事に物言うような印象があるので、「社会教育委員が期待すること」というような表現にしたら良いのではないかと思う。

○阿部委員

公民館関係者に学校関係者がいたら地域には踏み込みやすい。運営委員会の中に教員を入れるべき。教員は地域の課題をよく知っているので、地域を活性化するためには必要なのではないか。館長から「学校を退職された方を取り入れたい」という意見を言える仕組みがあってもいいと思う。ただ、公民館には多様な世代を職員として取り入れてほしい。

○江上委員

当たり障りのない表現では改革にならない。実現の可能性が低いようなことでも、希望すること、こんなことあるとよいよね、というようなことを書くとよいのではないか。再任用であっても社会教育に興味のある人を採用できるような取り組みができるのか、関係者が会議に参加できないかなど、こうしたら良いよねということを具体的に盛り込めば良いと思う。

○森(事務局)

文中で公務員の人材育成についても言及してしまっているが、ご意見を伺いたい。

○渡辺委員

求められる人材を全公民館に配置するというのは現実的に無理ではないか。助言できる人材を市に配置してほしいという程度に留めたら良いのではないか。

○谷口委員

公民館職員の「正規職員の配置について」というサブタイトルがついているので、それ以降の文章がサブタイトルに引っ張られていて、全ての公民館に正規職員を配置してほしいというように読み取れるが、公民館館長にも多様性があるという意見もあるのでここに入るのは見直した方が良い。「意見」とするときつく聞こえるので今後「期待すること」という入力で良いのではないか。人事に関わらないつもりだったが、話していくと関わってしまった、というような柔らかい書き方をしても良いと思う。

○福原会長

ガチッと正規職員と決める必要はなく、館によっては学校関係者、事業者など多様な人材の配置というような表現でどうかと思う。全体はこれで良いと思う。

○福田(事務局)

多様な人材という表現は良い。学校教員の採用をという意見もあるので、正規職員の配置という表現に絞らず、柔軟な方が良いと思う。

○森(事務局)

タイトルも含めて検討する。

5. その他

・京都府社会教育研究大会について

11月21日(金) 於:京田辺市立中央公民館

6. 閉会